

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第242集

大岡元長窪線関連遺跡Ⅳ

平成21・22年度（主）大岡元長窪線地域活力基盤創造交付金（道路改築）

工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

柏窪 A 遺跡

2011

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第242集

大岡元長窪線関連遺跡IV

平成21・22年度（主）大岡元長窪線地域活力基盤創造交付金（道路改築）

工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

柏窪 A 遺跡

2011

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

序

大岡元長窪線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成11年から始まり今回の発掘調査は第4回目に当たります。

調査開始から現在に至るまでの間に、大岡元長窪線建設をはじめとし、本遺跡周辺では中日本高速道路株式会社による新東名高速道路、国土交通省による東駿河湾環状道路の建設が進んでおり、長泉町上長窪地区は大きく変貌を遂げています。

今回の調査は、静岡県沼津土木事務所により進められてきた新東名高速道路長泉インターチェンジへのアクセス道路整備工事に伴う発掘調査であり、縄文時代と旧石器時代の遺構が確認されました。特に旧石器時代の土坑については、同様の遺構が同じ長泉町の柏葉尾遺跡や桜畑上遺跡などからも確認されており、これらの土坑との関係などから、用途等を考える上で新たな資料を提供することができました。本報告書が広く県民の方々に活用され、埋蔵文化財への理解と地域の歴史への興味が一段と深められることを願っております。

最後になりましたが、大岡元長窪線関連遺跡の現地調査ならびに本書の作成にあたって、静岡県沼津土木事務所をはじめ、多くの関係機関の援助、ご協力を得たことについて、厚くお礼申し上げます。

また、この場をお借りして、現地調査・資料整理に参加された作業員の皆様に深く感謝申し上げます。

平成23年2月

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

所 長 石 田 彰

例言

1. 本書は静岡県駿東郡長泉町上長塚764-1他に所在する、柏窟A遺跡の発掘調査報告書である。
2. 現地調査は、「平成21年度（主）大岡元長塚線地域活力基盤創造交付金（道路改築）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託」として、静岡県沼津土木事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化財保護課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行なった。
3. 資料整理は平成22年11月9日～平成23年3月15日に行なった。
4. 調査の体制は次のとおりである。

平成21年度 現地調査

常務理事兼所長 天野 忍 次長兼総務課長 松村 享 次長兼調査課長 及川 司
次長兼事業係長 稲葉保幸 事業担当 副主任 青井拓司
調査担当 次長兼東部総括係長 中鉢賢治 東部調査係長 笹原千賀子
調査研究員 久瀬 要 準調査員 吉村たまみ

平成22年度 現地調査

常務理事兼所長 石田 彰 次長兼総務課長 松村 享 調査課長 中鉢賢治
総務係長 瀧みやこ 専門監兼事業係長 稲葉保幸 事業担当 副主任 青井拓司
調査担当 調査一係長 勝又直人 常勤嘱託員 中島金太郎 準調査員 吉村たまみ

平成22年度 資料整理

常務理事兼所長 石田 彰 次長兼総務課長 松村 享 調査課長 中鉢賢治
総務係長 瀧みやこ 専門監兼事業係長 稲葉保幸 事業担当 副主任 青井拓司
調査担当 調査二係長 岩本 貴 準調査員 吉村たまみ

5. 本書の執筆は、吉村たまみが行なった。
6. 石器については、当研究所常勤嘱託員中村雄紀の指導を仰いだ。
7. 基準杭設置と空中写真撮影は、株式会社シン技術コンサルに委託した。
8. 本書の編集は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行なった。
9. 発掘調査資料は、静岡県教育委員会文化財保護課が保管している。

凡例

1. 調査区のグリッド設定は、世界測地形を使用し、 $(X, Y) = (-95070.0, 34560.0)$ 上を(A, 1)とし、X軸（南北）方向にアルファベットを付し、Y軸（東西）方向にアラビア数字を付した。また遺跡全体に一边10mの方眼を設定しグリッドとした。該当グリッドは、南西角の交点をもって名称した。
2. 遺物の取り上げや遺構の測量には、光波測定器を用い、株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を使用し、デジタルデータとして保存した。
3. 本文や観察表に使用する色彩に関する用語・記号は、新版「標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修2003年版）を使用した。
4. 本書掲載図の作成に、Adobe Illustrator C3を使用した。
5. 挿入図の縮尺は、各図に示したスケール通りである。

目次

序／例言／凡例

第Ⅰ章 調査の概要

- 第1節 調査に至る経緯……………1
第2節 大岡元長墓線関連遺跡の調査……………1

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

- 第1節 地理的環境……………2
第2節 歴史的環境……………2

第Ⅲ章 調査方法と経過

- 第1節 調査の方法……………4
第2節 調査の経過……………4
第3節 基本土層……………5

第Ⅳ章 調査成果

- 第1節 旧石器時代の遺構・遺物……………7
第2節 縄文時代の遺構……………9

第Ⅴ章 まとめ……………13

挿図目次

- 第1図 周辺の遺跡……………3
第2図 基本土層図……………5
第3図 土層柱状図……………6
第4図 旧石器時代遺構全体図……………7
第5図 旧石器時代土坑……………8
第6図 旧石器時代剥片……………8
第7図 縄文時代遺構全体図……………9
第8図 縄文時代土坑……………10
第9図 縄文時代小穴……………11

挿表目次

- 第1表 周辺の遺跡一覧……………3
第2表 縄文時代土坑計測表……………12
第3表 縄文時代小穴計測表……………12

写真図版目次

- 遺跡全景
図版1 1. 旧石器時代全景
2. 土層(1)TP8
BB0～SCⅢs1層
3. 土層(2)TP8
SCⅢs1～中部ローム層
図版2 1. 旧石器時代1号土坑
2. 旧石器時代2号土坑
3. 旧石器時代3号土坑
4. 旧石器時代剥片
5. 縄文時代遺構
図版3 1. 縄文時代10号土坑半截
2. 縄文時代10号土坑完掘
3. 縄文時代11号土坑半截
4. 縄文時代11号土坑完掘
5. 縄文時代23号土坑半截
6. 縄文時代23号土坑完掘
7. 縄文時代3号小穴完掘
8. 縄文時代21号小穴完掘

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

静岡県東部は、北に富士山、東に箱根山、南に駿河湾と自然豊かな地域である。休日には多くの観光客が訪れる。また東名高速道路や、JR東海道線・新幹線など主要交通網が発達しており、多くの企業が工場を構え、首都東京まで新幹線を利用して約1時間余りの距離から関東方面への通勤圏内となり、昨今ではベッドタウンとして人口が増加している。

このように訪れるにも居住するにも便利な地域のため、国道をはじめとする幹線道路は休日に関係なく慢性的な渋滞を招いている。

この問題を解決するべく新東名高速道路、東駿河湾環状道路（平成21年7月27日一部開通）などの道路建設が行われている。

大岡元長線は、新東名高速道路、東駿河湾環状道路建設に伴い、周辺地域の土地利用の高度化を図る必要性と周辺道路の渋滞を緩和するためのアクセス道路として計画された延長25kmの道路である。路線計画には多くの遺跡が周知されており、平成10年度に静岡県教育委員会文化課（現教育委員会文化財保護課）、静岡県沼津土木事務所、長泉町、沼津市が協議を行い、長泉町部分の調査を当研究所が担当することとなった。

今回の発掘調査は、平成20・21年度に静岡県教育委員会文化課（現教育委員会文化財保護課）によって行われた確認調査の結果、本調査を行うこととなったものである。

第2節 大岡元長線関連遺跡の調査

今まで行われた調査の概要をまとめてみたい。第1次調査として平成11年度に実施した確認調査と、その結果をふまえて平成12・13年度に行われた桜畑上遺跡、中峯遺跡、柏窪B遺跡の本調査が該当する。桜畑上遺跡からは縄文時代早期から後期の遺構・遺物、旧石器時代（休場層）の土坑2基が検出され、中峯遺跡からは、縄文時代早期末から前期初頭の住居跡3軒が検出された。また、柏窪B遺跡からは縄文時代の陥穴が2基検出されており、この結果は「大岡元長線関連遺跡Ⅰ」にまとめられている。

第2次調査は、平成16年度に実施した中峯遺跡の本調査、桜畑上遺跡の追加本調査、柏窪B遺跡の確認調査が該当する。中峯遺跡、桜畑上遺跡からは、縄文時代から旧石器時代までの遺構・遺物が検出されており、その結果は「大岡元長線関連遺跡Ⅱ」にまとめられている。

第3次調査は、平成17年度に実施した中峯遺跡の確認調査と、平成18・19年度に実施した野台南遺跡、柏窪A遺跡の本調査が該当する。野台南遺跡からは、縄文時代中期後半の石囲炉と埋竈を伴う住居跡2軒や、縄文時代早期から後期までの遺構・遺物、旧石器時代の石器ブロックなどの遺構・遺物が多数検出された。本遺跡の300mほど南東にある柏窪A遺跡からは、縄文時代の陥穴と思われる土坑14基が検出されているが、その他の遺構・遺物は全く検出されなかった。この結果は「大岡元長線関連遺跡Ⅲ」にまとめられている。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

柏窪A遺跡は、静岡県駿東郡長泉町上長嶺に所在する。長泉町は、細長い紡錘形をしており、愛鷹山地と富士溶岩扇状台地とで形成されている。北は裾野市と、東は境川を境に三島市と、南は竹原を境に駿東郡清水町と、西は位津岳の稜線を境に富士市と、沼津市とは愛鷹山の丘陵から黄瀬川によって境を分けている。

平野部は、都心部からの交通の便がよいことや、豊富な水資源があることから産業の拠点として、多くの工場が立地している。丘陵部は畑作や果樹、畜産など農業の場となっており、良質な生産物を広く流通させている。

愛鷹山は、標高1,187mの独立火山である。50万年前頃の第四期更新世に富士山の前身となる小御岳山や箱根火山とはほぼ同時期に誕生した火山である。古期から中期には、流動性の高い玄武岩質の溶岩や凝灰角礫岩を噴出し成層火山の形が出来上がった。新期には、火山活動が北面から南東側へ移動し、安山岩質の溶岩を噴出し南東側に緩やかな扇状台地を形成した。火山活動は約10万年前に休止し、その後古富士火山・箱根火山・新富士火山の噴出物が厚く堆積し、愛鷹ローム層を形成している。

愛鷹ローム層は、下位から下部ローム層、中部ローム層、上部ローム層、現世腐食火山灰層に分かれる。この上部ローム層に旧石器時代の遺跡が発見され、現世腐食火山灰層に縄文時代の遺跡が発見されている。

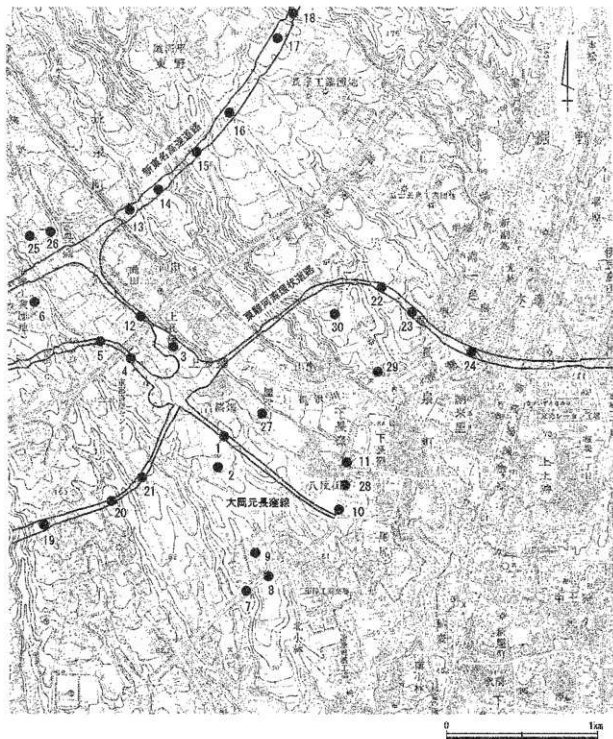
第2節 歴史的環境

柏窪A遺跡は、入り組んだ開析谷が発達し比較的緩やかな斜面地となった愛鷹山麓南東部に位置している。北へ約800mのところには東名高速道路が走り、すぐ北面には東駿河湾環状道路が走っている。また新東名高速道路建設などのため、遺跡周辺の長寿地区は大きく変貌している。

大岡元長窪線をはじめ、新東名高速道路、東駿河湾環状道路各路線内やその周辺には、多くの遺跡が周知されており、道路建設に伴う埋蔵文化財調査も多く行われ、新たな発掘資料が蓄積されている。

ここでは旧石器時代及び縄文時代の成果について簡単に記したい。大岡元長窪線建設に伴う発掘調査については、調査の概要に記述した通りである。新東名高速道路建設に伴う発掘調査では、旧石器時代の石器ブロック、縄文時代早期の住居跡、琺瑯耳飾りなどを含む石製品14点が出土した板畑上遺跡や、旧石器時代（第Ⅲ黒色帯層）の土坑、縄文時代早期燃糸文土器が出土した向田A遺跡、旧石器時代の石器ブロック、縄文時代早期から前期の土器が出土した細尾遺跡などがある。東駿河湾環状道路建設に伴う発掘調査では、縄文時代早期の住居跡を検出した上松沢平遺跡、縄文時代早期の表裏縄文土器が多数出土した丸尾北遺跡、縄文時代中期の記石遺構や敷石住居跡、石甕炉を伴う住居跡が多数検出された板畑上遺跡や、旧石器時代（第Ⅲ黒色帯層）の土坑群が検出された候平遺跡などがある。

また本遺跡と同様の旧石器時代（休場層）の土坑が検出された遺跡には、沼津市柏葉尾遺跡、清水市北遺跡、子ノ神遺跡、茗荷沢遺跡、的場遺跡、長泉町板畑上遺跡、陣場上B遺跡、西願寺遺跡などがあげられる。



第1図 周辺の遺跡 (1/25,000)
 (国土地理院発行 1 : 25,000沼津、二島を複製して使用)

第1表 周辺の遺跡一覧

1 柏窪A遺跡	7 大谷津遺跡	13 向田A遺跡	19 上松沢平遺跡	25 中尾遺跡
2 柏窪A遺跡(9区画)	8 子ノ神遺跡	14 細尾遺跡	20 寺針遺跡	26 イラウネ遺跡
3 櫻畑上遺跡	9 柏葉尾遺跡	15 八分平E遺跡	21 丸尾北遺跡	27 八反田遺跡
4 中巻遺跡	10 陣馬上遺跡	16 富士石遺跡	22 池田B遺跡	28 平畦遺跡
5 野台南遺跡	11 西願寺遺跡	17 東野遺跡	23 鉄平遺跡	29 上野遺跡
6 清水柳北遺跡	12 四山遺跡	18 榑ノ木沢遺跡	24 大平遺跡	30 茶木相遺跡

第三章 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

1 実測・測量方法

グリッド杭7本を使用し、測量を行った。遺構平面図・地形測量等についてはトータルステーションを用い、株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を使用し、デジタルデータとして保存した。遺構の土層断面図など手取りによる実測は縮尺1/20を基本とした。

2 記録写真

写真撮影は、35mmカラーネガ、6×7判モノクロを組み合わせて使用した。調査区全景写真撮影にはローリングタワーを使用した。また、遺跡周辺の景観を含めた記録としてラジコンヘリコプターによる空中撮影も行った。

第2節 調査の経過

1 確認調査

平成20・21年度に静岡県教育委員会文化課（現教育委員会文化財保護課）により実施された。遺物の出土はなかったが、旧石器時代の土坑がそれぞれ1基ずつ検出された。

2 本調査

確認調査の結果より、1,674㎡が本調査範囲となった。平成21年1月19日から準備工を開始し、2月1日から重機による表土除去を開始し、3日から掘削作業を開始した。4日には、グリッド杭を打設した。

当初の工程は、確認調査の結果を受け旧石器時代包含層を対象とする1面調査の予定だったが、表土除去後調査区南側と旧農道部分に縄文層の堆積がみられたため、休場層上面での縄文時代の遺構検出を実施することとなり、2月8日から縄文時代包含層の掘削に入った。2月23日からは縄文時代の遺構調査を開始し、土坑・小穴65基を検出し、掘削・実測・写真撮影を行った。3月12日から旧石器時代の休場層から休場層直下黒色帯までを掘削し、遺構検出を行った。その結果、1基の土坑を検出した。確認調査で検出された2基と合わせて計3基の土坑の掘削・実測・写真撮影を行った。その後、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行った。

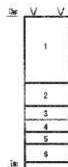
4月21日から、下部層調査を開始した。4×4mのテストピットを7ヵ所設定し、まず第Ⅲスコリア帯まで掘削した。その内、テストピット6については確認調査時に掘削した箇所とし、4×4mのテストピットの内側に2×2mのテストピットを設定し、中部ローム層までの掘削を行った。その間掘削作業と並行して、実測・写真撮影を行った。遺構遺物が認められなかったため、5月26日で掘削作業は終了した。27日には、ローリングタワーを使用し掘削終了写真を撮影し、28日から重機による埋め戻しを行い、6月1日に撤収・撤去が完了した。

3 資料整理

基礎整理となる遺物洗浄・注記、写真・図面整理においては、発掘作業と並行して行った。本署作成は、平成22年11月9日から翌年3月15日まで行った。現地で作成した図面を報告書掲載用図面にするために、加工・修正を行い全体図・遺構図等を作成した。遺物写真は、6×7判カメラを使用した。

第3節 基本土層

愛鷹山は約70万年～80万年に活動を開始し、約10万年前ころには活動を終了した火山である。その後、古富士火山・箱根火山・新富士火山が噴火を開始し、周囲には火山噴出物が堆積した。これら富士山起源の火山灰は、愛鷹山東南麓に厚く堆積しており愛鷹ロームと呼ばれる。1967～1968年に愛鷹ローム団研グループ（愛鷹ローム団研グループ1969）により上部ローム・中部ローム・下部ロームと大別されている。上部ロームの下限は約3万年前で、スコリア層と黒色帯（埋没土腐植層）が互層になっており、それぞれにローマ数字が付されている。愛鷹山周辺の発掘調査の層名もこれに基づいて表記されている。本遺跡の土層堆積も基本的にこの基本層序に一致する。



番号	層名	発掘基本層名・記号	色調	粒粒	しまり	含有物
1	灰棕色土					
2	黒褐色土	埋没黒色土 M	10YR2/2	細	やや密	1mmの褐色スコリア、極少量。
3	暗褐色土	海砂層 Z	10YR2/3	粗	やや密	1mmの褐色スコリア、極少量。
4	褐色土	伴埋没上位 YB	7.5YR4/1	粗	密	極小の黒炭粒、少量。
5	褐色土	伴埋没中位 YLB	10YR4/6	粗	密	2mmの褐色スコリア、少量。
6	灰褐色土	伴埋没下位 YLL	7.5YR4/3	細	やや密	2～3mmの褐色スコリア、少量。
7	暗褐色土	伴埋没下下層色帯 B2	10YR2/4	粗	やや密	1～4mmの褐色スコリア、少量。 黒炭粒。
8	暗褐色土	第Iスコリア層 S1	7.5YR2/3	粗	やや密	1～5mmの褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
9	黒褐色土	第I黒色帯 B1	10YR2/2	粗	密	2～7mmの褐色・褐色スコリア。
10	黒色土	第I黒色帯 B1	10YR1.7/1	粗	密	1～5mmの褐色スコリア、極少量。
11	暗褐色土	ニヤローム層 M	10YR2/3	粗	密	1～7mmの褐色・褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
12	暗褐色土	第II黒色帯 B2	10YR2/3	粗	密	2～6mmの褐色・褐色スコリア、少量。
13	暗褐色土	第IIスコリア層 S2	10YR2/2	粗	密	1～5mmの褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
14	褐色土	第II黒色帯 B2	10YR1.7/1	粗	密	1～4mmの褐色・褐色スコリア、極少量。
15	暗褐色土	第IIIスコリア層 S3	10YR2/3	粗	密	1～6mmの褐色・褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
16	暗褐色土	第IIIスコリア層 S3	10YR2/2	粗	密	1～6mmの褐色・褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
17	暗褐色土	第IIIスコリア層 S3	7.5YR2/3	やや粗	密	1～10mmの褐色・褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
18	暗褐色土	第IIIスコリア層 S3	10YR2/2	粗	密	1～5mmの褐色・褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
19	暗褐色土	第IIIスコリア層 S3	10YR2/3	粗	密	1～6mmの褐色・褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
20	暗褐色土	第IIIスコリア層 S3	7.5YR2/3	粗	密	1～6mmの褐色・褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
21	暗褐色土	第IIIスコリア層 S3	10YR2/3	粗	密	1～2mmの褐色・褐色スコリア、少量。
22	暗褐色土	第III黒色帯 B3	10YR2/3	粗	密	1～3mmの褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
23	暗褐色土	スコリア層 S4	10YR2/2	やや粗	密	1～8mmの褐色・褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
24	暗褐色土	第IV黒色帯 B4	10YR2/3	粗	密	2～5mmの褐色・褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
25	暗褐色土	スコリア層 S5	10YR2/2	粗	密	3～8mmの褐色・褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
26	暗褐色土	第IV黒色帯 B4	10YR2/2	粗	密	2～6mmの褐色・褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
27	暗褐色土	スコリア層 S6	10YR2/2	粗	密	1～4mmの褐色・褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
28	暗褐色土	第IV黒色帯 B4	10YR2/3	粗	密	1～4mmの褐色・褐色・褐色・ 褐色スコリア、少量。
29	褐色土	中部ローム M	10YR4/6	粗	やや密	1～7mmの褐色・褐色スコリア。

第2図 基本土層図

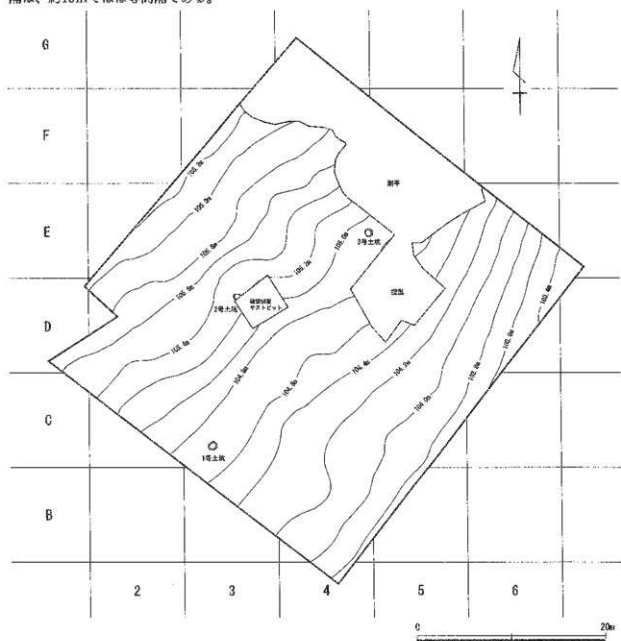
第IV章 調査成果

第1節 旧石器時代の遺構・遺物

1 遺構

2回の確認調査と本調査によって、休場層直下黒色帯直上で3基の土坑が検出された。3基とも形状や深さなどから陥穴として考えられる。

1号土坑と3号土坑は、主に休場層上位（YLU）を覆土としている。2号土坑は、確認調査時のテストピットによりほぼ真ん中で切られている。また、休場層上位（YLU）が覆土となっているが、遺構検出面までが攪乱されていた為か、土坑覆土も一部攪乱を受けていたようである。1号・2号・3号の間隔は、約16mでほぼ等間隔である。



第4図 旧石器時代遺構全体図

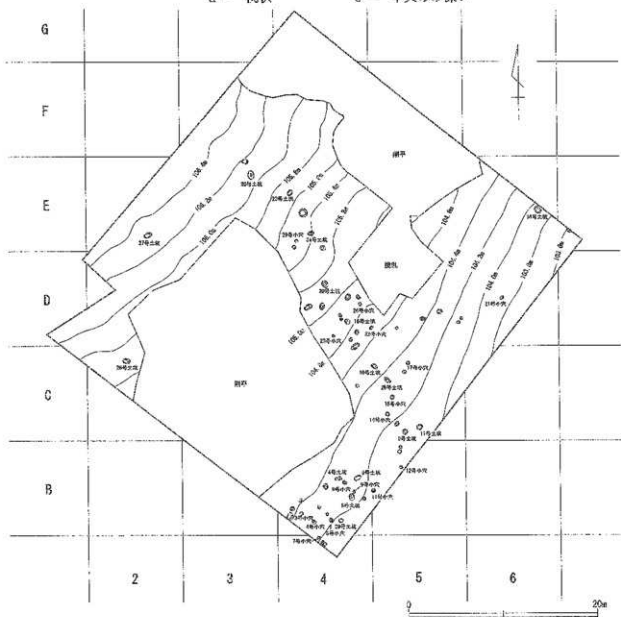
第2節 縄文時代の遺構

縄文時代の遺構は、休耕層上面を検出面とし土坑及び小穴を検出した。土坑及び小坑の分類は長径が50cm以上のものを土坑、それ以下のものを小穴とした。制平や擾乱によって遺構が確認できた面積は狭かったが、土坑は全体に分布し、小穴は南側に多く分布していた。

1 土坑

土坑は、34基検出された。覆土が暗褐色土だったため、縄文時代のものと考えられるが遺物が共存しなかったことから時期決定は困難である。形状等により、以下の通り分類した。それぞれの分類については、土坑計測表に掲載した。

- | | | | |
|------|----------|------------|----------|
| 平面形状 | I - 円形 | II - 楕円形 | |
| 断面形状 | a - レンズ状 | b - 逆台形状 | c - 底部2段 |
| | d - 椀状 | e - 中央のみ深い | |

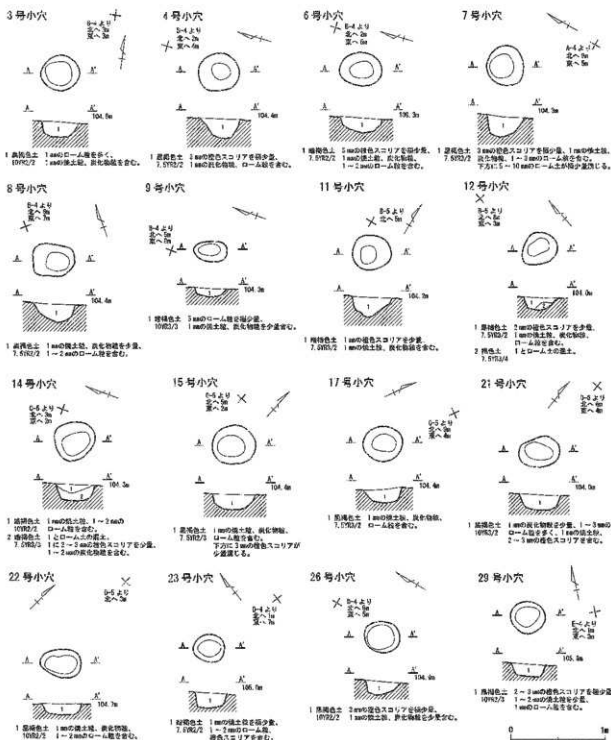


第7図 縄文時代遺構全体図

2 小穴

小穴は、31基検出された。遺物が伴件しなかったことから時期決定は困難であるが、土坑と同じく覆土が暗褐色土だったため縄文時代のもと考えられる。形状等により、以下の通り分類した。それぞれの分類については、小穴計測表に掲載した。

平面形状	I - 円形	II - 楕円形
深さ	a - 20cm以下	b - 20cm以上



第9図 縄文時代小穴

第2表 縄文時代土坑計測表 () は、残存値

遺跡名	グリッド	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	分類	押出角杭	写真撮影角杭
1号土坑	B-4	(0.78)	0.48	0.13	II a		
2号土坑	B-4	(0.54)	0.5	0.13	I b		
3号土坑	A-4	(0.50)	0.39	(0.19)	II a		
4号土坑	B-4	0.7	0.25	0.14	II c	○	
5号土坑	B-4	0.74	0.51	0.2	II d	○	
6号土坑	B-4	(0.30)	(0.44)	0.27	II b	○	
7号土坑	B-5	0.46	0.39	0.13	I d		
8号土坑	C-5	0.56	0.54	0.19	I c	○	
9号土坑	C-5	0.5	(0.30)	0.14	I d		
10号土坑	C-5	0.7	0.44	0.21	II d	○	○
11号土坑	C-5	0.05	0.54	0.16	I b	○	○
12号土坑	D-5	0.6	0.5	0.2	I d		
13号土坑	E-7	0.62	(0.51)	0.21	I d		
14号土坑	E-6	0.86	0.6	0.17	II a	○	
15号土坑	D-4	0.68	0.63	0.14	I a		
16号土坑	D-4	0.58	0.52	0.19	I d	○	
17号土坑	C-4	0.98	0.53	0.27	II a		
18号土坑	D-4	0.72	0.48	0.13	II c		
19号土坑	D-4	0.89	0.47	0.31	II c		
20号土坑	D-4	0.75	0.59	0.28	II d	○	
21号土坑	E-4	0.62	0.49	0.22	II d		
22号土坑	E-4	0.95	0.85	0.29	I c		
23号土坑	E-4	0.67	0.47	3.18	II b	○	○
24号土坑	E-5	0.63	0.52	0.12	I a		
25号土坑	C-5	0.78	0.41	0.15	II c	○	
26号土坑	C-2	0.52	0.45	0.15	II a	○	
27号土坑	E-2	0.92	0.5	0.17	II c	○	
28号土坑	E-3	0.99	0.64	0.49	II e	○	
29号土坑	B-4	0.52	0.4	0.15	I d	○	
30号土坑	B-4	0.57	0.45	0.23	I d	○	
31号土坑	C-5	0.56	0.4	0.15	II a		
32号土坑	D-5	0.57	0.38	0.21	II d		
33号土坑	D-4	0.51	0.49	0.39	II e		
34号土坑	E-4	0.63	0.26	0.18	II c	○	

第3表 縄文時代小穴計測表 () は、残存値

遺跡名	グリッド	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	分類	押出角杭	写真撮影角杭
1号小穴	B-4	0.47	0.43	0.16	I a		
2号小穴	B-4	(0.42)	0.54	0.14	II a		
3号小穴	B-4	0.41	0.36	0.16	I a		
4号小穴	B-4	0.44	0.39	0.2	I b	○	○
5号小穴	B-4	0.34	(0.16)	0.1	II a		
6号小穴	B-4	0.45	0.35	0.15	II a	○	
7号小穴	A-4	0.41	0.58	0.22	I b	○	
8号小穴	B-4	0.45	0.34	0.2	II b	○	
9号小穴	B-4	0.35	0.21	0.09	II a	○	
10号小穴	B-4	0.42	0.35	0.13	I a		
11号小穴	B-5	0.47	0.36	0.21	I b	○	
12号小穴	B-5	0.4	0.34	0.12	I a	○	
13号小穴	B-5	0.38	0.32	0.12	I a		
14号小穴	C-5	0.44	0.39	0.19	I a	○	
15号小穴	C-5	0.48	0.4	0.18	I a	○	
16号小穴	C-5	0.36	0.57	0.12	II a		
17号小穴	C-6	0.42	0.36	0.16	I a	○	
18号小穴	D-5	0.31	0.28	0.11	I a		
19号小穴	D-5	0.41	0.39	0.1	II a		
20号小穴	D-5	0.57	0.29	0.11	II a		
21号小穴	D-5	0.43	0.32	0.16	II a	○	○
22号小穴	D-5	0.43	0.3	0.12	II a		
23号小穴	D-4	0.38	0.29	0.16	I a	○	
24号小穴	D-4	0.33	0.25	0.1	I a		
25号小穴	D-4	0.41	0.34	0.08	I a		
26号小穴	D-4	0.38	0.32	0.15	I a	○	
27号小穴	D-4	0.49	(0.36)	0.15	I a		
28号小穴	E-4	0.41	0.58	0.11	I a		
29号小穴	E-4	0.27	0.34	0.13	I a	○	
30号小穴	A-4	0.4	0.34	0.27	I b		
31号小穴	D-4	0.41	0.36	0.11	I a		

第V章 まとめ

1 旧石器時代

遺物は、休場層上位（YLU）から剥片が1点出土した。

遺構は、休場層直下黒色帯（BB0）上面で、3基の土坑を検出した。1・3号は楕円形を呈し、2号はほぼ中央部で踏査調査時のテストピットに切られているが、長楕円形を呈していたと考えられる。土坑の長径はいずれも約90cmと大型のものである。

遺構は土坑以外確認されなかった。

土坑は野蕨穴・墓穴・陰穴などに用途が分けられるが、特定するのは難しい。本遺跡は、大きさや土坑以外の遺構が認められなかった点と遺物の出土がない点から、居住の場ではなく狩猟の場ではないかと考えられる。そうすると土坑は、陰穴と考えるのが適当だろう。土坑の配置をみると、それぞれが約16mの等間隔で造られているが、2号は他の2基と比べ標高の高いところに造られている。このことに注目するならば、2号と標高を同じくある箇所は削平されているか調査区外となっているため明言はできないが、標高を変えて計画的に2列平行に造られていた可能性を考えても良いかもしれない。

2 縄文時代

土坑34基、小穴31基が検出された。遺構覆土からの遺物、縄文時代包含層からの遺物出土もなかったため、時期と用途は不明である。

柏窪A遺跡周辺の縄文時代遺跡には、桜畑上遺跡や中峯遺跡、丸尾北遺跡などがある。これらの遺跡からは、縄文時代中期の住居跡が検出されている。特に北隣の桜畑上遺跡からは、敷石住居跡や配石遺構、石囲炉を伴う住居跡が25軒検出され、遺物の出土も多い。

しかし、本遺跡からは縄文時代の遺物出土がなく、平成19年度に調査した柏窪A遺跡も土坑のみの検出で、遺物の出土はなかった。

本遺跡周辺は、昭和44年に開始された農業構造改善事業によって上部層が動かされ、縄文時代の包含層が広い範囲で失われ、その後農地として利用されたため、もし縄文時代の包含層があったとしても遺物が失われた可能性はある。しかし農業構造改善事業以前の昭和44・45年に柏窪遺跡の調査が行われ、昭和44年の調査では遺構のみの検出で、遺物の出土はなかったと報告されている。以上のことから、本遺跡周辺は縄文時代の人々の居住の場ではなかったと考えられる。

参考文献

- 筑波ローマ博物館グループ 1999 「愛媛山雲のローム層－京奈高遺跡第3号現場を中心として－」『歴史紀研究第8巻第1号』
- 加藤学園考古学研究所 1995 『伊豆山山コントロールクラブ地内遺跡群－ゴルフ場増設に伴う発掘調査報告書』『先史時代の稲穴について』
- 長承町・長泉町教育委員会 1992 『長泉町史 上巻』
- 沼津市教育委員会 1982 『子ノ神・大谷津・山崎Ⅱ・丸尾Ⅱ』沼津市文化財調査報告書 第27集
- 沼津市教育委員会 1990 『清水伊豆遺跡発掘調査報告書 その2』沼津市文化財調査報告書 第48集
- 沼津市教育委員会 1995 『柏東馬遺跡』沼津市文化財調査報告書 第51集
- 長泉町教育委員会 1978 『西郷寺遺跡（A地区）長久保城址（二の丸）』
- 長泉町教育委員会 1990 『柏窪遺跡発掘調査概報昭和44年度』
- 長泉町教育委員会 1992 『柏窪遺跡』
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2003 『大岡元美遺跡発掘調査報告書』

写真図版



遺跡全景（南東から）

図版 1



1 旧石器時代全景



2 土層(1)TP8
BB0~SCⅢs1層 (南から)



3 土層(2)TP8
SCⅢs1~中部ローム層 (南から)



1 旧石器時代1号土坑（南から）



2 旧石器時代2号土坑（南から）



3 旧石器時代3号土坑（南から）

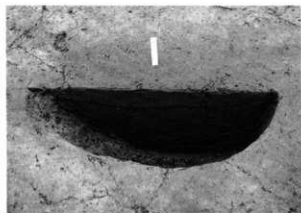


4 旧石器時代剥片

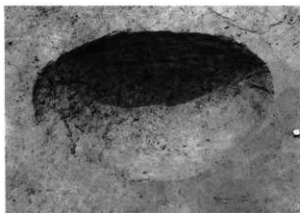


5 縄文時代遺構（北西から）

図版3



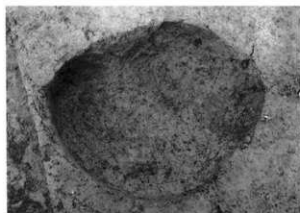
1 縄文時代10号土坑半截（北東から）



2 縄文時代10号土坑完掘（東から）



3 縄文時代11号土坑半截（南から）



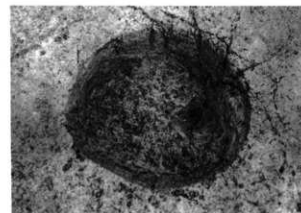
4 縄文時代11号土坑完掘（南から）



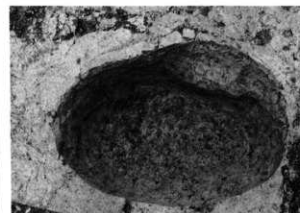
5 縄文時代23号土坑半截（南東から）



6 縄文時代23号土坑完掘（南から）



7 縄文時代 3号小穴完掘（南東から）



8 縄文時代21号小穴完掘（南東から）

報 告 書 抄 録

よりがな	おおおかもとながくぼせんかんれんいせき									
書 名	大岡元長宿線開通遺跡IV									
副 題 名	(主) 大岡元長宿線地域活力基盤創造交付金(道路等築)工事に伴う埋蔵文化財調査報告書									
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所									
シリーズ番号	第242集									
著 者 名	吉村たまみ									
編 者 機 関	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所									
所 在 地	〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23番20号 TEL 054-262-4261 (代談)									
発行年月日	平成23年2月28日									
よりがな 所収遺跡名	よりがな 所在地	コード		北緯		東経		発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号	世界測地系						
柏窪A遺跡	静岡県 駿東郡 長泉町 かみかみ 上長宿 764-1他	22342		35° 08' 44"	138° 52' 34"	20100201 ～ 20100631	1.674㎡	(主) 大岡元長宿線地域活力基盤創造交付金(道路等築)工事に伴う埋蔵文化財発掘調査		
所収遺跡名	種名	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項		
柏窪A遺跡	散布地	旧石器時代	土坑		剥片					
	散布地	縄文時代	土坑・小穴							
要 約	柏窪A遺跡は静岡県駿東郡長泉町に所在する。愛鷹山南東麓の緩やかな丘陵に位置する。旧石器時代の遺構は、土坑が3基検出された。いずれも隆穴と考えられる。縄文時代の遺構は、土坑3基・小穴31基が検出された。包含層からの遺物の出土がないため、時期や用途は不明である。									

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第242集

大岡元長窪線関連遺跡Ⅳ

平成21・22年度（主）大岡元長窪線地域活力基盤創造交付金（道局改築）
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

柏窪A遺跡

平成23年2月28日

編集発行 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23-20
TEL 054-262-4261(代)

印刷所 みどり美術印刷株式会社
〒410-0058 沼津市沼北町2丁目16番19号
TEL 055-921-1839(代)

